日刊工業新聞
年月日 25 10 14
ページ 12
NO.

非連続の変革 未来創る

大日本印刷 ⑥

挑戦する企業

国内に市場作る

ICカードの蓄積生かす

認証技術軸に海外展開

「ICカード事業で培った認証技術を主軸に、セキュリティービジネスの会社として海外で地位を確立したい」―。大日本印刷（DNP）常務執行役員の沼野芳樹は決意する。成長エンジンは他社との協業やM&A（合併・買収）。振り返れば、ICカードも国内外の企業や業界団体との協力で日本市場を作り上げ、国内トップシェアを獲得した歴史を持つ。

DNPは1970年代から磁気カードの製造・発行を手がける中で、欧州で開発が先行していた高セキュリティー・大容量のICカードに着目し、83年に開発。ICチップの進化により偽造防止の観点でキャッシュカードなどにも用途が広がった。99年には牛久工場（茨城県牛久市）を開設し、情報管理、製造・発行技術を磨き上げた。ICカード基本ソフト（OS）など関連する情報サービスを開発できる点も強み。

カードの進化に追随して技術力を高めてきた。

2001年の全国銀行協会（全銀協）による「全銀協ICキャッシュカード標準仕様」の策定にはDNPも参画し、全銀協が認定するICカードベンダーの第1号となった。02年にはVISA（ビザ）から、ICクレジットカードを促進するコンサルサービスを提供可能な企業として認定。ICカードの導入に向けたセミナーを多数開催し、日本市場の開拓や普及時の垂直立ち上げに貢献した。ICカードは徐々に浸透し、経済産業省が打ち出した20年までのクレジット全量IC化により一気に普及した。

Gサウスに狙い

沼野は「ICカードの歴史は挑戦そのもの。軌道に乗るまで技術開発、製造、営業の皆が一丸となり粘り強く取り組んだ。日本市場の立ち上げは国内外の多様なパートナーとの『対話と協働』で成し得たことだ」と話す。

だが、今後はICカードの大きな伸びは見込めない。対話と協働の成功を糧に、次に狙うのが海外展開。DNPは7月に、アフリカを中心に住民などの本人情報を登録・認証する政府向けID認証サービスを提供するルビコン（英領ケイマン諸島）を買収した。拠点の

▲DNPはICカードで国内トップシェア

ないグローバルサウス（南半球を中心とした新興・途上国）への橋頭堡（ほ）だ。DNPからカードやプリンターを供給し、ルビコンの総合力も高める。

「ICカードで長年培ってきた認証・偽造防止技術を基盤に拡張する。ルビコンに限らず、互いに成長できる企業と組みたい。今、このタイミングで海外でのセキュリティービジネスを加速させる」（沼野）と、情報セキュア関連事業の新たな1ページを刻む。

（敬称略）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社